

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2011年3月3日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No. 197】

国会・マスコミのJR革マル問題追及がついに本格化！

国会とマスコミが、JR総連・東労組への革マル派浸透や民主党との関係などについて繰り返し追及している。開会中の第177通常国会における衆議院予算委員会での審議では、自民党の柴山昌彦議員（北関東比例）が2月1日に、棚橋泰文議員（岐阜2区）が2月8日に、平沢勝栄議員（東京12区）が2月10日と21日に続けて質問し、当該問題について詳細に亘って追及し、菅直人内閣総理大臣や枝野幸男内閣官房長官ら政府の見解を厳しく問い質した。平沢議員は「この問題はこれで終わりません」と述べ、引き続き追及していく姿勢を明らかにしている。また、マスコミでは、2月9日発売『週刊文春』（2月17日号）は「枝野官房長官『警視庁公安部捜査』に“圧力”をかけた」と題する記事を、2月18日発売の『新潮45』3月号「『枝野官房長官と革マル派』疑惑の深層」と題する記事を、それぞれ掲載した。2005年12月16日に民主党議員がJR総連の意向を受け、故・松崎明氏らによる、当時捜査中の「業務上横領事件」等について警察庁関係者から「ヒアリング」し、警察捜査へ「圧力」をかけた問題を詳しく取り上げて指弾している。予算委員会の審議は10日を除きNHKが全国中継したほか、国会での審議内容は、産経、朝日、読売新聞も取り上げ、社会的注目が大きく高まっている。

このように、かねてよりJR連合が、わが国の深刻な治安問題として警鐘を鳴らしてきたJR総連・東労組への革マル派浸透問題への追及は止まるところを知らず、ますます本格化している。そして、JR総連から794万円の献金の受領を指摘された枝野長官は、上記予算委員会で「（東労組から）献金等のお申し出があってもお断りさせていただこうと思う」と繰り返し答弁し、事実上の「絶縁宣言」を行った。また、2月1日の委員会で菅総理は「社会的に極めて問題があるという団体との関係は、当然ながら、気をつけなければならない」と答弁した。これがJR総連・東労組を指していることは、文脈からみても明らかだ（本情報「No.191」参照）。

なお、これらの追及の内容については、順次、本情報で検証を進めていくこととしたい。

枝野官房長官発言に「許し難い」と反発するJR総連！

ところで、こうした追及に対し、JR総連・東労組はかなり腹を立てているようだ。2月21日の予算委員会で平沢議員は次の通り、JR総連の前・小田祐司会長が2月4日のJR総連第33回中央委員会の挨拶で枝野長官の発言に嘔み付いたことを明らかにした。

JR総連の前委員長はこう言っているんですよ。この前、2月4日にJR総連の中央委員会が開かれたんです。ここで何と言っているかという、「何とかという官房長官、何とも情けないことに、我々が応援している何とかという官房長官が『李下に冠を正さず』などと証言したのである。つまり、疑わしいところからは、今後、金をいただきません、というということを証言したのである。許し難い行為である。民主党などに今後抗議していかなければならない」と。これを来賓として来たJR総連の前委員長が言っているんです。

JR総連は、民主党に抗議する前に、自ら革マル浸透問題の真相解明に取り組むのが先だ。「許し難い」のはどちらか、よく考えた方がよい。今後、「危険団体」と目されるJR総連・東労組と距離を置く民主党議員が続々と増えることは間違いないだろう。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>